EOI (essences of the issue)

脳血管障害は周知のように理学療法の対象として最も頻度が高く，すでに多くの評価治療の研究が成され，それゆえその理学療法の効果があることは半ば先験的に自明のこととして受け止められています．しかし自然経過による回復過程を超える治療効果に関して，検証し得た報告は必ずしも多いとはいえないのではないでしょうか．筆者は無論『効果はある』という立場に立つものですが，いかなる治療を選択し，どの様なデザインで検証すべきなのかを改めて問いたいというのが今回の企画の目標でした．

いずれの特集論文も，『理学療法の有効性』という基本的でありながら困難な課題に真摯に向かう気迫が感じられるものになっています．読者諸兄姉の率直なるご意見ご批判をいただければ幸甚です．

■脳卒中のリハビリテーションの効果（大川弥生，他論文）

脳卒中リハの効果についての最新の海外文献のレビュー．リハの効果を論じるに際しては，1）リハの目的はQOLの向上にあり，リハ効果の検討も，この目的との関係を重要視すべきこと，2）リハのプログラム・技術には大きな違いがあり，それによってリハ効果にも決定的な差が生じることを指摘．

■脳卒中患者への早期理学療法の効果（長澤　弘論文）

脳卒中患者に対する早期理学療法の効果を，文献的考察および自験例で検討した．諸報告では，早期の機能的予後予測が重要であり，最初の1か月の回復が著しいことなどが述べられた．発症当日からの早期理学療法を開始した脳卒中片麻痺35症例（当日群）と，発症後7日以降から開始した37症例（対照群）とを比較した結果，当日群が対照群よりも早く歩行が可能になり，入院期間も短縮できた．6か月後の到達機能では差がないが，社会経済的効果はあるといえた．

■慢性期脳卒中後遺症患者への理学療法の効果（寺澤　健論文）

脳卒中患者は発病から様々な病態を呈する．すなわち，異常姿勢トーンの出現，痙性の増強，連合反応の出現，代償活動による機能の獲得などである．また，発病から時期が経つにつれ，異常な感覚運動障害が構築されることが多い．慢性陳旧例に対する運動療法はこうした異常な感覚運動障害に対する治療であり，その効果について，ボバース記念病院の治療成績および2例の症例報告から考察した．

■脳血管障害患者の体力に関する運動療法の効果（杉本諭，他論文）

脳血管障害例の体力に関する報告は散見されるが，歩行が自立していない者に対する体力の評価やトレーニング方法についてはいまだ一定の見解が得られていない．今回は，このような歩行能力の低い者でも駆動可能な半仰臥位型エルゴメータを用いた早期体力トレーニングを紹介し，その実用性とトレーニング効果について検討を加えた．最後に，脳血管障害例の体力に関する研究について，今後の展望を述べた．

■脳卒中患者に対する装具療法の効果（森　信孝論文）

脳卒中患者に対する早期リハビリテーションの取り組みにより，装具療法は，能力障害（disability）のみでなく，機能障害（impairment）に対する重要なアプローチ法として捉えられるようになってきている．多くの施設で多種多様な装具が開発されているが，装具のもつ特性を十分に理解し，発症からの経過とともに変化する病態や，個々の目的にそった装具の適応処方に加えて，日常の観察と評価が重要である．

■脳卒中片麻痺患者に対する電気刺激療法の効果（小池和幸，他論文）

脳卒中片麻痺に対する電気刺激（FES）と治療的電気刺激（TES）について概説した．

筆者らは片麻痺患者の前脛骨筋にTESを行い，歩行速度の改善効果を得た．その要因として，遊脚相における膝関節の屈曲角度の増加が関与していると考えられ，TESは刺激した髄節レベルのみならず，他の髄節にも効果を及ぼす可能性があることが示唆された．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013

2026/10/08 20:07:32